

ゆき 先生

第15回目のご講義を、ありがとうございました。

毎回楽しみにしていた講義も今回で最後となり、少し寂しい気持ちで拝聴しました。

今回は、これまでご登壇くださった方々や、先生が伝えてくださった数々のお話を振り返る内容でしたが、全回全て、あまりにも濃密だったせいか、感謝の気持ちを、うまく言葉にまとめることができません。

言葉が人の見方や社会のあり方に与える影響、学問や報道が社会に届くための表現の力、医療や福祉における尊厳、身体拘束、精神医療、オープンダイアログ、ユニバーサルデザイン、地域で暮らすこと、そして世の中を動かそうとする人々の度胸やユーモア。改めて振り返り、一つひとつのお話が、それぞれ別のテーマでありながら、どこかでつながっていたように感じました。

中でも今回、特に強く心に残ったのは、岩川さんご本人から伺ったお話です。

住民の方々とともに築いてきた福祉の水準を守ろうとされたこと、その後の選挙や逮捕、長期にわたる勾留、そして裁判で重要な証拠が顧みられなかったというご経験。それらを実際に経験されたご本人の言葉は、強く迫るものがありました。

報道や書籍を通して冤罪について知ることと、その経験を背負って生きてこられた方から直接お話を伺うことは、大きく違うことをあらためて実感しました。正しいことを主張し、証拠を示せば、少なくとも裁判では判断してもらえはすべしという前提さえ、必ずしも成り立つとは限らない。その現実、言葉にし難い理不尽さへの怒りと恐ろしさを覚えました。

また、その出来事によって、岩川さん個人の人生だけではなく、住民の方々と築かれてきた福祉の実践や、日本の中で一つのモデルとなっていたものまで失われたというお話は、重く受け止めました。

ゆき先生は、制度や肩書だけでは見えない現実を、実際に経験された方々の声とともに伝えてくださいました。そして、問題を指摘するだけでなく、言葉を生み出し、人と人をつなぎ、ときに度胸やユーモアをもって社会を動かしてきた方々の姿も、数多くご紹介くださいました。

今回の振り返りを通して、改めて、この講義は単に医療や福祉の知識を学ぶ場ではなく、何に違和感を持ち、何を見過ごさず、どのように社会へ伝えていくのかを考える時間だったのだと思いました。

まだ完全には言葉にしきれていないことも多くありますが、伺ったお話は、これからも折に触れて思い返し、考え続けていくものになると思います。

時に驚き、時に心を揺さぶられるご講義を、本当にありがとうございました。

いまさらではありますが、「来年も受講するために、あえて単位を落とす」という選択肢も、あったのではないかなどと、少々不届きなことで考えてしまいました。それほど、毎回楽しみにしていた講義でした。

本当にどうもありがとうございました。どうか、くれぐれもご自愛ください。また是非、ゆき先生のお話を伺いできる機会に恵まれますように…!!

(※ 万が一、公開の機会がございましたら、氏名は伏せた形でお願いできますと幸いです。)